

みのむら 養村虫送り

【日 程】7月13日

【場 所】とづか会館～鳥墓神社

【参加者】養村自治会、地区の子ども

【願 望】害虫駆除、五穀豊穡



動画はこちら



さらに詳しい解説は
こちら

明星地区養村自治会では、現在町内で唯一、虫送り行事が行われています。自治会によれば、昭和18年(1943)～19年(1944)に戦争により一時中断したものの、昭和22年(1947)に復活し現在まで続けられています。

昭和61年(1986)までは光雲寺前から鳥墓神社前までの間で行われていましたが、現在はとづか会館前から神社前までの約250mを練り歩きます。夕刻になると、持ち寄った松明に火をつけ列を作って神社を目指します。神社に到着すると、松明は参道脇の1ヶ所に集められ、火が燃え尽きると行事は終了します。農薬のない昔、害虫からお米を守ることは大変な苦勞だったのでしょうか。農作業に対する当時の人々の強い想いが込められた行事が虫送りだったのです。

行事の起源は不明ですが、かつて虫送りに使用されていたとされる太鼓には、安永3年(1774)に上村に住んでいた北岡源右衛門光章が養村の安全を祈って太鼓を神社に寄付したことが刻まれており、少なくとも虫送りが250年以上続いている可能性があります。



ほら貝、太鼓、鉦を先頭に松明が進みます



鳥墓神社へ進む行列

*この内容は平成30年(2018)度の実施した映像記録事業での聞き取り調査や過去の調査資料をもとに作成しました。内容が変更になっている可能性もあります。

キーワード：伝統行事、風習、虫送り、養村、無形民俗文化財